

「体内膜細胞は少数です。再検査をお勧めします。」とコメント記載の患者様へ

子宮がん検査には、子宮の入り口の子宮頸がん検査、子宮の奥の子宮体がん検査に分類されます。特に、子宮体がんの検査は子宮の奥から細胞を採るためどうしても痛みを伴います。子宮の大きさ、形には個人差があり、狭くて検査器具が入らない方、痛みが強く検査が難しい方がいます。その中で、できるだけ痛みを少なく、スムーズに検査を終了することを心がけております。

しかしながら、狭さや、痛みで検査ができない方、検査ができて細胞数が少ない方がいます。そのような場合もあるため、同時に超音波検査を行い、子宮内膜の厚み（子宮体がんがあると厚みが増す）も同時に診察しております。狭さや痛みが強い方で検査ができない方の場合、超音波検査で子宮内膜の厚みを確認して問題ないと判断をすることもあります。

今回の子宮体がん検査で、「体内膜細胞は少数です。再検査をお勧めします。」のコメントがありますが、検査機関の記載上、細胞が少ないと必ずこのようなコメントが記載されます。（少数の細胞でも、がん細胞の可能性がある場合は異形細胞が認められる結果がでます。）

今回、超音波検査でも問題ないため、1年後の検診でよいと判断しました。

ご心配で再検査をご希望の方は、費用はかかりませんので、どうぞご遠慮なくお申し付けください。

